

# 岩手県感染症週報

令和6年第5週（1月29日～2月4日）

岩手県感染症情報センター

## 第5週の概要

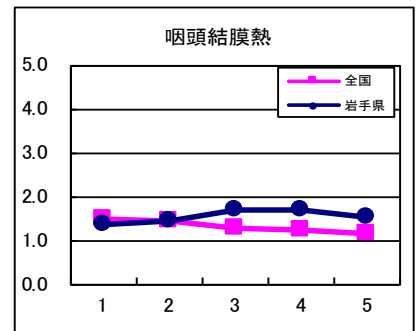
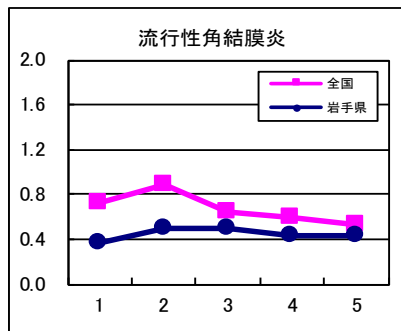
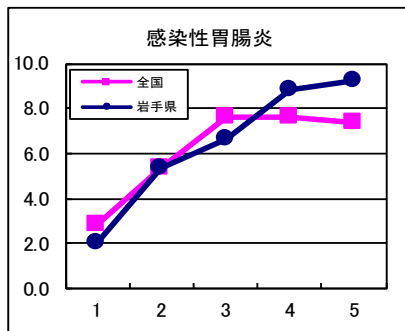
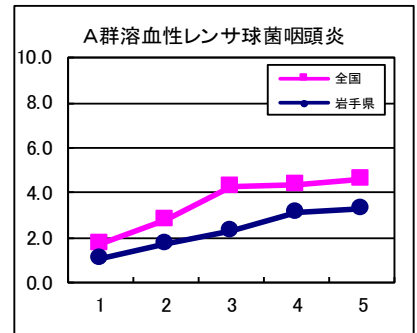
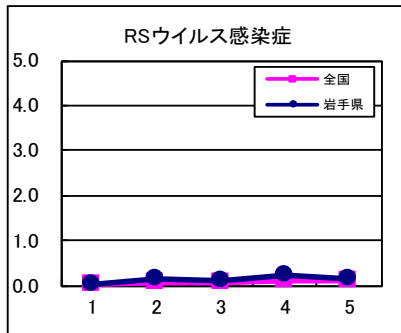
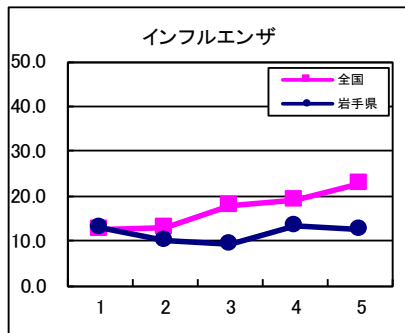
- 1類感染症
  - ・患者発生の報告はありませんでした。
- 2類感染症
  - ・結核の報告が2例ありました。そのうち1例は潜在性結核感染症でした。
- 3類感染症
  - ・患者発生の報告はありませんでした。
- 4類感染症
  - ・レジオネラ症の報告が1例ありました。
- 5類感染症（全数把握対象疾患）
  - ・カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症の報告が1例ありました。
- 5類感染症（定点把握対象疾患）
  - ・新型コロナウイルス感染症はやや減少し、定点あたり患者数は16.15人となりました。全国的には増加の傾向にあります。国内で感染が広がっている新たな変異株JN.1が県内で検出されています。県内のクラスターの発生は9件で、その内訳は、高齢者施設5件、医療施設4件でした。高齢者や基礎疾患のある方は重症化リスクが高いので注意してください。引き続き、手洗い、咳エチケット、ワクチン接種等基本的な感染予防対策の確認をお願いします。県は有症者の相談や受診先を紹介する「いわて健康フォローアップセンター」の運用を継続して行っています。
  - ・インフルエンザはやや減少し、定点あたり患者数は12.57人となりました。年齢層別では15歳未満が約8割を占めており、学校等休業措置が23件ありました。全国的にAH3亜型（A香港型）とAH1pdm09が流行しており、B型の検出数も増えてきています。ワクチン未接種の方は早めの接種が望まれます。症状がある場合は、感染を広げないようにマスクを着用のうえ、早めに受診しましょう。
  - ・感染性胃腸炎は増加し、定点あたり患者数は9.26人となりました。年齢層別では6歳未満が約7割を占めており、集団発生が教育保育施設で4件ありました。胃腸炎ウイルスは消毒用アルコールが効きにくいいため、石けんと流水による手洗いが重要です。調理や食事の前、トイレの後には手を洗いましょう。患者の吐物や便は、使い捨て手袋とマスクを着用して塩素系消毒剤で処理してください。

「岩手県・新型コロナ対策  
パーソナルサポート  
(@iwatevscovid19)  
ID検索またはQRコードか  
ら友達追加



## 最近の注目疾患（定点あたり患者数の過去5週の動き）

（疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意）



定点把握対象疾患（過去5週の動き）

報告週対応表 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/calendar.html>

※2023年第19週より新型コロナウイルス感染症が定点把握対象疾患となりました。

※2018年1月1日より百日咳が5類感染症（定点把握疾患）から5類感染症（全数把握疾患）へ変更されました。

※2013年第42週より感染性胃腸炎（ロタウイルス）が定点把握対象疾患となりました。（定点あたり患者数）

疾病名	地域	週					流行傾向	
		1	2	3	4	5		
インフルエンザ	岩手県	12.93	9.87	9.39	13.15	12.57	↘	☆☆
	全国	12.66	12.99	17.72	19.20	22.62		
RSウイルス感染症	岩手県	0.03	0.15	0.10	0.21	0.15	→	☆
	全国	0.04	0.07	0.08	0.11	0.12		
咽頭結膜熱	岩手県	1.36	1.44	1.69	1.69	1.51	→	☆☆
	全国	1.46	1.44	1.28	1.24	1.15		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	1.05	1.72	2.33	3.13	3.31	→	☆
	全国	1.73	2.83	4.28	4.35	4.63		
感染性胃腸炎	岩手県	2.08	5.33	6.67	8.87	9.26	↗	☆
	全国	2.82	5.35	7.63	7.60	7.43		
水痘	岩手県	0.18	0.26	0.23	0.10	0.03	→	
	全国	0.15	0.14	0.15	0.13	0.14		
手足口病	岩手県	0.15	0.18	0.36	0.23	0.33	→	☆
	全国	0.14	0.13	0.17	0.20	0.22		
伝染性紅斑	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.01	0.02	0.02	0.02	0.02		
突発性発疹	岩手県	0.21	0.38	0.23	0.33	0.28	→	☆
	全国	0.12	0.20	0.21	0.20	0.20		
ヘルパンギーナ	岩手県	0.00	0.08	0.15	0.03	0.00	→	
	全国	0.02	0.02	0.03	0.03	0.03		
流行性耳下腺炎	岩手県	0.00	0.05	0.15	0.00	0.05	→	
	全国	0.01	0.03	0.03	0.03	0.03		
急性出血性結膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01		
流行性角結膜炎	岩手県	0.36	0.50	0.50	0.43	0.43	→	☆
	全国	0.72	0.89	0.64	0.59	0.53		
新型コロナウイルス感染症	岩手県	7.89	10.34	10.93	16.82	16.15	↘	☆
	全国	6.96	8.96	12.23	14.93	16.15		
細菌性髄膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.05	0.00	0.00	→	
	全国	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01		
無菌性髄膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.05	0.00	0.00	→	
	全国	0.01	0.02	0.03	0.02	0.01		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.16	0.11	0.05	0.11	0.00	→	
	全国	0.05	0.07	0.08	0.07	0.08		
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	-	0.00	0.00	-	-		
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	岩手県	0.05	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.01	0.00	0.01	0.02	0.01		
インフルエンザ（入院患者） ※報告数であることに注意	岩手県	18	15	10	7	11		
	全国	1162	1053	935	706	576		

【流行傾向の見方】

- 無印：ほとんど患者が発生していません
- ☆：患者が発生しています
- ☆☆：警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆：多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※ジカウイルス感染症が2016年2月15日から四類感染症に追加されました。

(患者発生数)

分類	疾病名	(週)	岩手県					全国	
		1	2	3	4	5	累計	5	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 ( ) 内は潜在性結核感染症患者再掲	1 (0)	4 (2)	3 (1)	2 (1)	2 (1)	12 (5)	238	1077
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群 (MERS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	0
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	0	4
	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	0	1	0	1	13	113
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	1
四類 感染症	E型肝炎	0	0	0	0	0	0	12	54
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	0	2	7
	エキノкокクス症	0	0	0	0	0	0	0	0
	エムボックス	0	0	0	0	0	0	3	7
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	0
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	1
	キャサヌル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	0
	ジカウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	1	3
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	つつが虫病	0	0	0	0	0	0	3	48
	デング熱	0	0	0	0	0	0	4	16
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	2
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	1	1
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	0
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0	
ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	0	
マラリア	0	0	0	0	0	0	0	3	
野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0	
ライム病	0	0	0	0	0	0	0	0	
リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0	
レジオネラ症	0	1	0	1	1	3	33	160	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	0	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患 (続き) (過去5週の動き)

(患者発生数)

分類	疾病名	(週)					累計	全国	
		1	2	3	4	5		5	累計
五類 感 染 症	アメーバ赤痢	0	1	0	0	0	1	5	34
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	0	0	0	0	2	12
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	0	0	0	0	1	1	19	154
	急性弛緩性麻痺	0	0	0	0	0	0	1	3
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	0	0	0	0	0	0	5	58
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	1
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	3	13
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	32	239
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	0	13	85
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	1	2
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	0	9	78
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	5
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	0	0	0	0	0	39	317
	水痘 (入院例)	0	0	0	0	0	0	8	32
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	2	1	1	1	0	5	175	1004
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	1	0	1	1	13
	破傷風	0	0	0	0	0	0	0	5
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	3	11
百日咳	1	0	0	0	0	1	14	46	
風しん	0	0	0	0	0	0	0	0	
麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	

今注目の感染症

感染性胃腸炎

感染性胃腸炎は、細菌やウイルスなどの微生物を原因とする胃腸炎の総称です。毎年秋から冬にかけて流行し、その原因はノロウイルスやサポウイルスなどのウイルスが大部分を占めています。感染性胃腸炎の原因ウイルスは、手指や食品などを介して経口感染し、嘔吐、下痢、腹痛などを引き起こします。健康な人は軽症で回復しますが、子どもや高齢者は重症化したり、吐物を誤って気道に詰まらせて死亡することがあります。

全国の感染性胃腸炎の報告数は、例年は11月頃から増加して12月にピークを迎えます (図1)。

一方、県内の感染性胃腸炎の報告数は、全国と同様の流行形態をとる年とそうでない年があります (図1及び2)。2023年は第5週にピーク (定点当たり患者数9.93人) が認められました。今週の県内各保健所管内ごとの定点当たり患者数は図3のとおりです。

県内の集団感染事例は、2022年4月から2023年3月までに124例報告されました。内訳は、86例はノロウイルス、28例はサポウイルス、7例はサポウイルスとノロウイルス、1例はヒトパレコウイルス、1例はアデノウイルス、1例はロタウイルスによるものでした。また、2023年4月から2024年第5週までに51例報告されました。内訳は30例はノロウイルス、1例はノロウイルスとサポウイルス、2例はアストロウイルス、2例はサポウイルスによるもの、16例はその他でした。

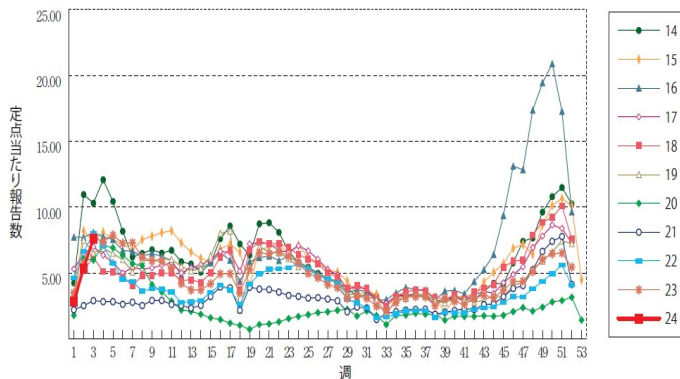


図1 全国の感染性胃腸炎の発生状況 (2014年～2024年第3週)  
(国立感染症研究所HPより)

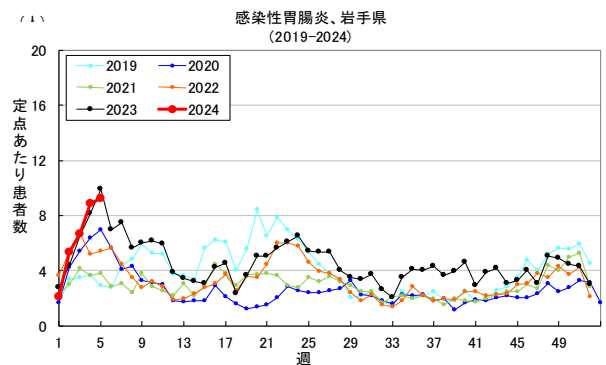


図2 岩手県の感染性胃腸炎の発生状況  
(2019年～2024年第5週)

今注目の感染症

感染性胃腸炎 (続き)

感染性胃腸炎の主な原因となるウイルスは感染力が非常に強く、少量のウイルスでも感染する特徴があります。学校や教育保育施設、老人福祉施設などの集団生活を営む施設では、感染予防対策の再確認が勧められます。

ウイルス性胃腸炎の予防方法は以下のとおりです。

- (1) トイレの後、調理前、食事前には石けんと流水で十分な手洗いを行う。
- (2) 調理する場合、加熱が必要な食品は85～90℃・90秒以上で十分加熱する。
- (3) 嘔吐した場合は、部屋の換気を十分に行いながら、マスクや使い捨て手袋を用いて片付け、嘔吐した場所や使用した器具を塩素系消毒剤で消毒する。
- (4) 嘔吐、下痢等の症状がある場合には、早めに受診する。

【参考】

感染性胃腸炎とは (国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/383-intestinal-intro.html>

ノロウイルスに関するQ&A (厚生労働省)

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html)

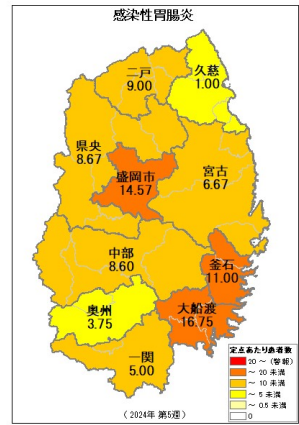


図3 第5週の保健所管内別の状況

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報(行政区域データ)」をもとに岩手県が編集・加工した。  
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)を使用した。(承認番号 平29情使、第675号)

今注目の感染症

インフルエンザ

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする急性の呼吸器感染症で、毎年のように世界で流行がみられます。潜伏期間は1日～3日程度で、38℃以上の発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛などの症状が突然現れ、鼻水や咳などの呼吸器症状が続きます。

岩手県では、例年11月下旬から12月頃に流行入りし、1月から3月頃に患者数が増加します。2020/2021シーズンの報告数は患者実数(※注)で6人、2021/2022シーズンは同9人で、流行開始の目安である定点当たり患者数1.0人を上回ることなく低調でした。2022/2023シーズンの患者実数は14,355人で、第49週に流行入りし、第8週にピークとなりました。2023/2024シーズンは、例年より早く第40週に流行入りし、第49週にピークとなりました(図1及び2)。今週の県内保健所管内ごとの定点当たり患者数は図3のとおりです。

主な感染経路は、咳やくしゃみ、会話などから発生する飛沫による感染(飛沫感染)と、飛沫の付着物に触れた手指などを介した接触感染です。予防には、マスクの着用などの咳エチケットによる飛沫感染対策と、手洗いによる接触感染対策が挙げられ、この他にワクチン接種が効果的です。ワクチンによる予防効果が現れるまでに2週間程度かかるため、早めの接種が勧められます。接種を希望する人は、事前に医療機関にお問い合わせください。

(※注) 患者実数とは定点医療機関において報告された患者数

【参考】

インフルエンザとは (国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/219-about-flu.html>

インフルエンザQ&A (厚生労働省)

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/infuenza/QA2022.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/infuenza/QA2022.html)

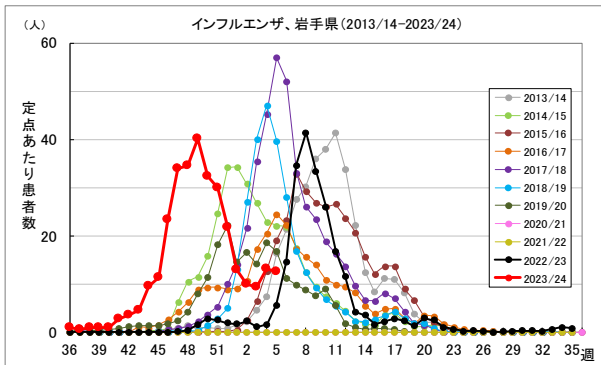


図1 岩手県のインフルエンザの発生状況 (2013/14年～2023/24年第5週)

図2 各シーズンの流行入り・注意報・警報を超過した週

シーズン	流行入り	注意報発令	警報発令	ピーク	
	定点あたり患者数	定点あたり患者数	定点あたり患者数	ピーク	定点あたり患者数
2013/2014	1.0人	48	5	8	11 41.28
2014/2015	-	47	48	52	1 34.3
2015/2016	1	1	3	6	6 32.88
2016/2017	45	2	-	5	24.45
2017/2018	48	1	3	5	56.98
2018/2019	50	1	3	4	47.11
2019/2020	42	50	-	52	22.06
2020/2021	-	-	-	-	-
2021/2022	-	-	-	-	-
2022/2023	49	6	7	8	41.37
2023/2024	40	45	47	49	40.06

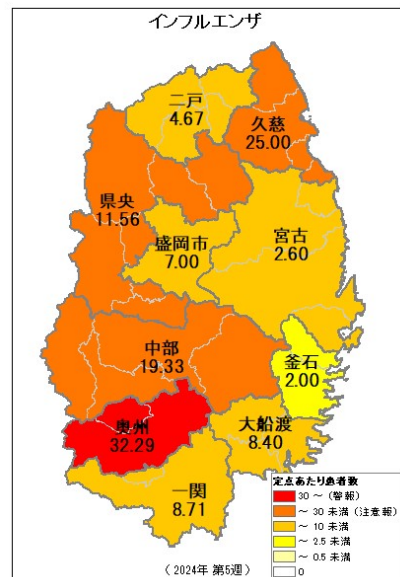


図3 第5週の保健所管内別の状況

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報(行政区域データ)」をもとに岩手県が編集・加工した。  
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)を使用した。(承認番号 平29情使、第675号)

今注目の感染症

梅毒

梅毒は、感染力が強い『梅毒トレポネーマ』というらせん状の細菌によって引き起こされます。主に、感染している人の病変部（性器、口唇部、口腔内、肛門等）と直接接触する性行為や疑似性行為により、梅毒トレポネーマが粘膜や皮膚などの傷口から侵入して感染します。

感染後3週間程度の潜伏期間の後に、感染部位にしこりや潰瘍がみられるようになりますが、数週間程度で症状がなくなります（早期顕症Ⅰ期）。その後、治療せずに数週間～数か月経過すると、病原体が血液によって全身に運ばれ、手のひらや足の裏、体全体に発疹がみられるようになります（早期顕症Ⅱ期）。さらに、感染後数年～数十年経過すると、皮膚や筋肉、骨などにゴムのような腫瘍、心臓、血管、脳などの複数の臓器に病変が生じる場合があります（晩期顕症）。妊娠している人が梅毒に感染すると、胎盤を通して胎児に感染し、死産、早産、新生児死亡や奇形が起こることがあります（先天梅毒）。

早期顕症と晩期顕症の間には症状が消える無症候期がありますが、体内には梅毒トレポネーマが残っており、感染を広げる恐れがあります。この無症候期が診断・治療の遅れにつながるため、注意が必要です。また、終生免疫は得られないため、再感染する可能性があります。

全国では、2013年以降は報告数が増加傾向に転じ、一旦減少したものの2023年第47週の時点で過去最多を更新しています（図1）。男女の異性間性交渉での感染が増加しているほか、性風俗店利用者での梅毒の報告数が増加しています。岩手県では2017年以降2桁の報告数が続いており、2023年では42例の報告があり感染症発生動向調査が始まった1999年以降、過去最多となっています（図2）。

梅毒は早期発見、早期検査、早期治療が重要です。感染が疑われる症状がみられた場合は、早めに医師の診察や治療を受けましょう。また、感染していたことが判明した場合は、周囲で感染の可能性がある人（パートナー等）と一緒に検査を受け、必要に応じて治療を行うことが重要です。

岩手県では、県内各保健所において、匿名・無料で梅毒検査を行っています。他の性感染症も含め、適切な予防対策をとり、症状がみられる場合など不安がある場合は、検査や医療機関を受診するよう心がけましょう。

【参考】

- 梅毒とは（国立感染症研究所）  
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/465-syphilis-info.html>
- 梅毒に関するQ&A（厚生労働省）  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/syphilis\\_qa.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/syphilis_qa.html)
- 梅毒検査について（岩手県）  
<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/iryuu/kenkou/aids/1003196.html>

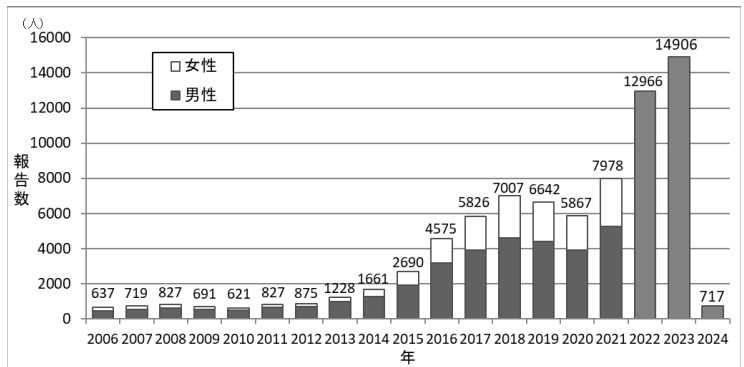


図1 全国の梅毒報告数（2006～2024年第4週）  
※2022年から2024年のデータは速報値のため男女別は未公表

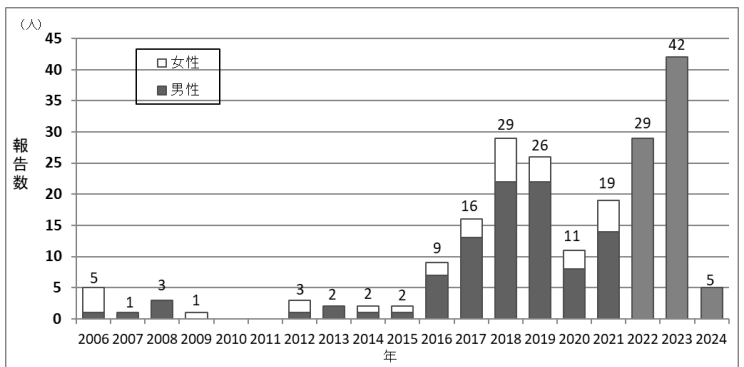


図2 岩手県の梅毒報告数（2006～2024年第5週）  
※2022年から2024年のデータは速報値のため男女別は未公表

今注目の感染症

新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、コロナウイルス科ベータコロナウイルス属の新型コロナウイルスによる急性呼吸器症候群です。令和3年2月13日に指定感染症から新型インフルエンザ等感染症になり、令和5年5月8日からは五類感染症になりました。

国内の発生状況は図1（厚生労働省HPより）のとおりです。岩手県では、県内初の報告が2020年7月29日に2例あり、2020年は394例、2021年は3,101例、2022年199,642例の報告がありました。2023年は第18週までに34,982例が報告されています（図2は年齢層別）。

2023年第19週からは全数把握対象疾患ではなく、定点把握対象疾患となり、県内の発生動向は定点医療機関からの患者数の報告に基づいて公表しています。

第19週以降の県内の定点あたり患者数は、図3のとおり、第5週の県内保健所管内ごとの定点あたり患者数は図4のとおりです。予防には、咳エチケットや手洗いなど普段からの感染症予防対策に努めていただくとともに、「3つの密」（換気の悪い密閉空間、人が多数集まる密集場所、間近で会話や発声をする密接場面）を避けるようにしましょう。

※本文中の県内患者報告数は、該当年の第1週から最終週までの累計となります。詳細は国立感染症研究所HPの報告週対応表を御覧ください。

報告週対応表 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/calendar.html>



<<<岩手県の電話相談窓口>>>

〇いわて健康フォローアップセンター

受付時間 24時間 全日（土日・祝日含む）  
TEL:0570-089-005 FAX:050-3730-7658

- ① 発熱等の症状が生じた場合は、まず「かかりつけ医」に電話でご相談ください。
- ② 相談先に迷う場合や「かかりつけ医」がない場合は、上記フォローアップセンターにご相談ください。
- ③ ①又は②での紹介・案内に従い「診療・検査医療機関」を受診してください。

詳しくは、岩手県の新型コロナウイルス感染症のホームページを御覧ください。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/iryuu/covid19/index.html>

また、新型コロナウイルス感染症の最新情報については、厚生労働省及び国立感染症研究所のホームページで随時更新されています。ご確認をお願いします。

◆参考

新型コロナウイルス感染症について－厚生労働省－

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html)

新型コロナウイルス（2019-nCoV）関連情報について

－国立感染症研究所－

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/9324-2019-ncov.html>

図1 全国の新型コロナウイルス新規陽性者数（～5/7）

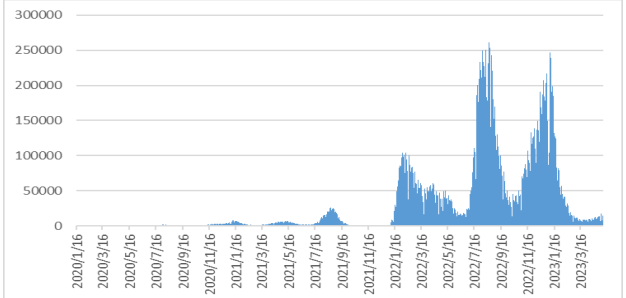
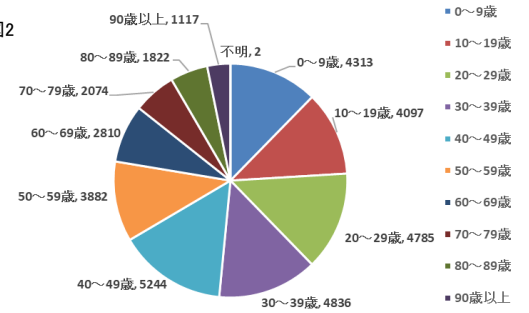


図2



岩手県における新型コロナウイルス感染症の報告数  
年齢層別 2023年第1週から第18週まで、N=34,982

図3 COVID-19、岩手県（2023第19週～）

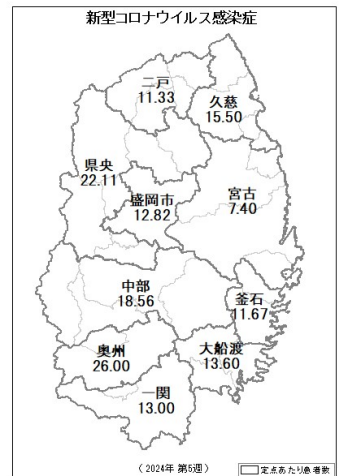
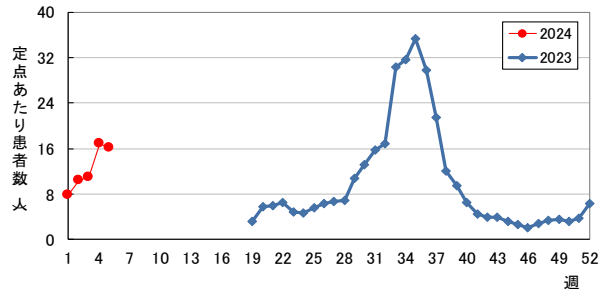


図4 第5週の保健所管内別の状況

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報（行政区域データ）」をもとに岩手県が編集・加工した。  
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図（国土基本情報）電子国土基本図（地図情報）を使用した。（承認番号 平29情使、第675号）

## 集団感染情報

- 新型コロナウイルス感染症によるクラスターの発生について(令和6年2月7日発表分)
  - ・岩手県 6件
  - ・盛岡市 3件
- インフルエンザによる学校等の休業措置について（令和6年1月29日から2月5日発表分）
  - ・岩手県 17件
  - ・盛岡市 6件詳細は岩手県医療政策室のホームページをご覧ください。  
<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/iryuu/kenkou/influ/1060843.html>
- 感染性胃腸炎の集団発生について
  - ・釜石保健所管内の教育保育施設（園児65名、職員22名）  
1月9日(火)から2月1日(木)にかけて、園児30名に症状(嘔吐・下痢等) 有症者6名からノロウイルスを検出
  - ・盛岡市保健所管内の教育保育施設（利用者・職員100名未満）  
1月25日(木)から1月31日(水)にかけて、園児25名、職員6名に症状(嘔吐・下痢等)
  - ・盛岡市保健所管内の教育保育施設（利用者・職員150名未満）  
1月21日(日)から2月1日(木)にかけて、園児16名に症状(嘔吐・下痢等)
  - ・中部保健所管内の教育保育施設（園児81名、職員23名）  
1月29日(月)から2月2日(金)にかけて、園児17名に症状(嘔吐・下痢等) 有症者1名からノロウイルスを検出



## 病原体検出情報

- ・この週には病原体検出情報はありません。

## 医療機関からの情報

- ・この週には医療機関からの情報はありません。

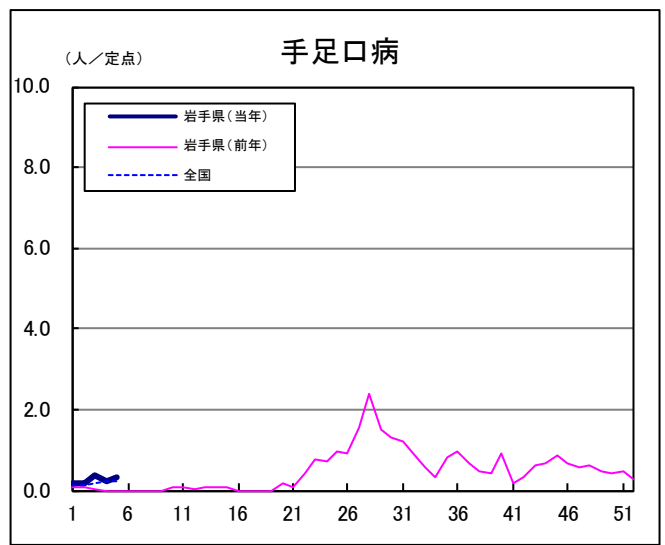
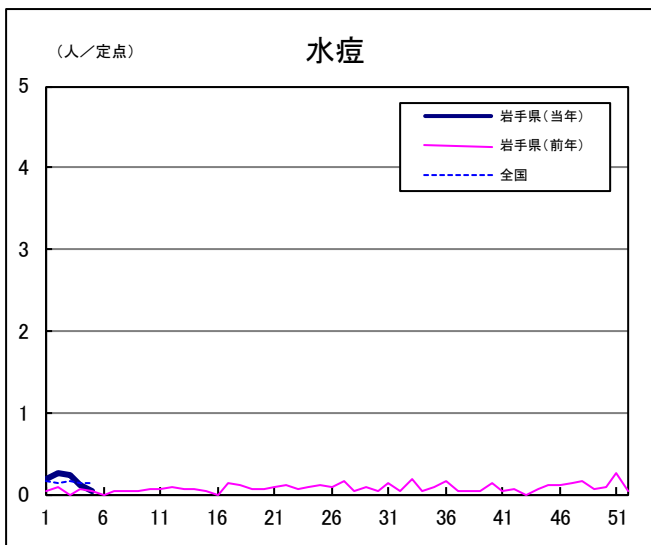
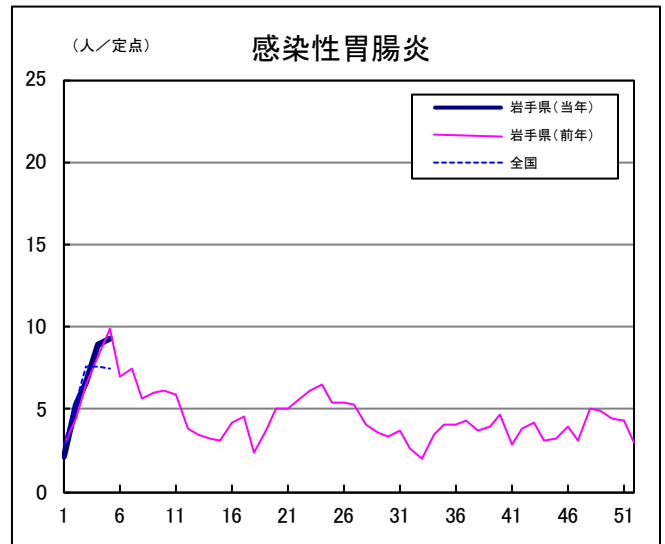
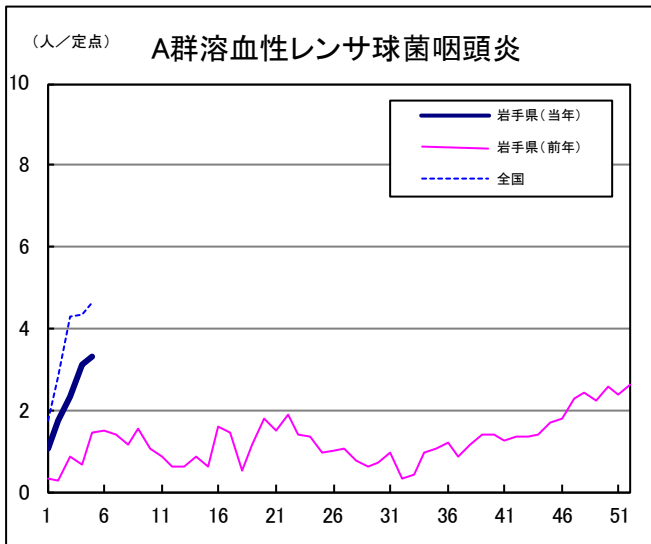
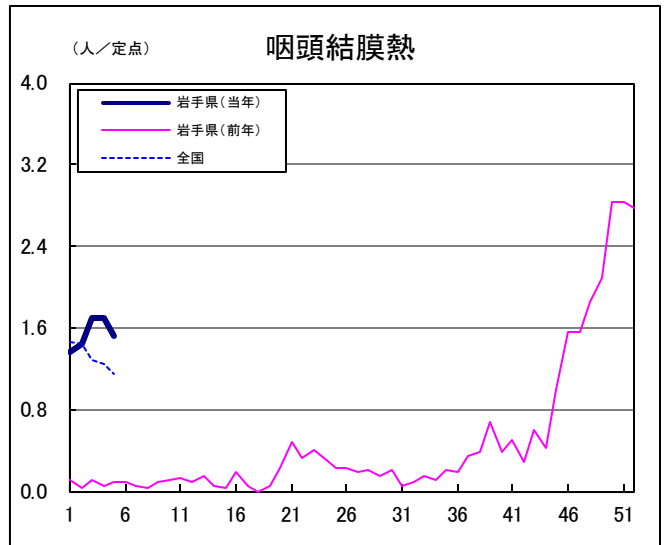
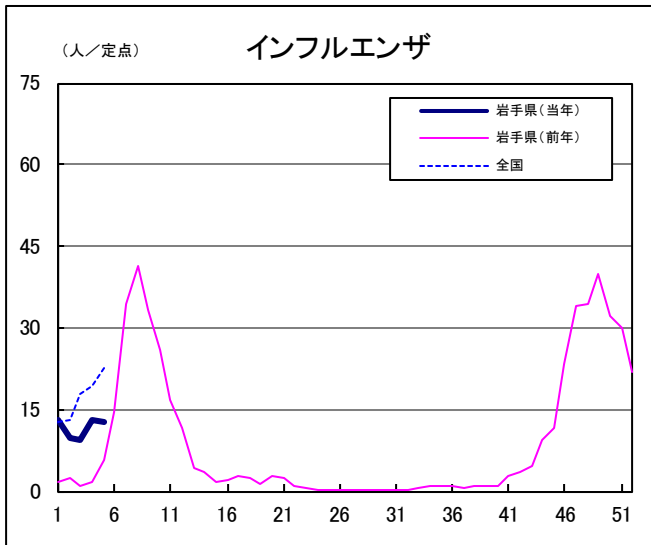
## Q & A

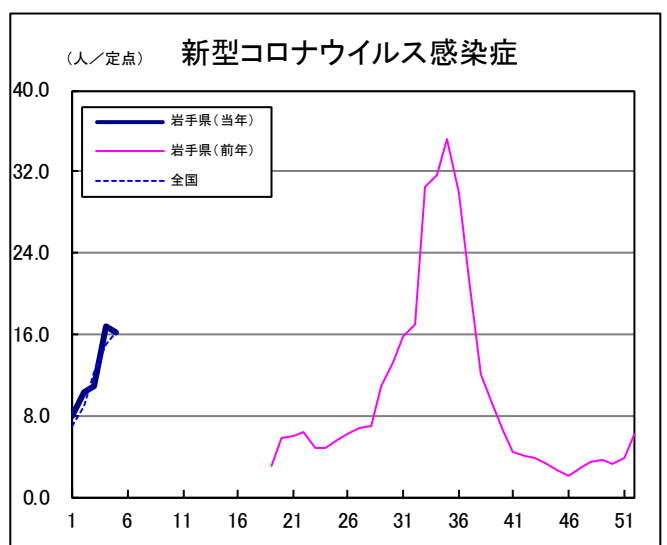
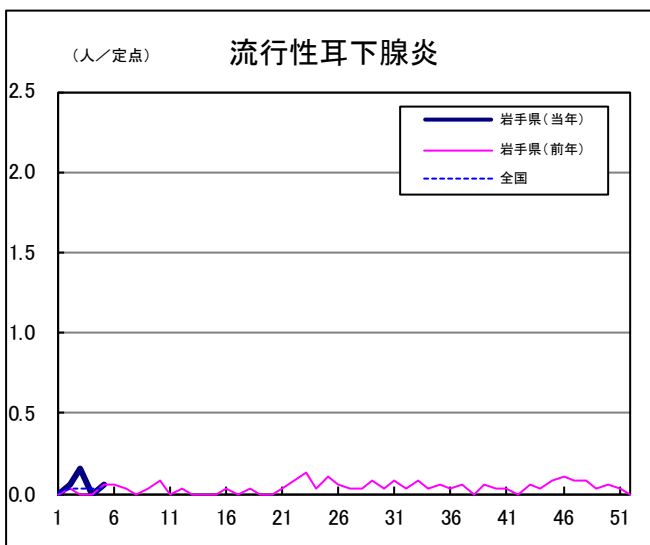
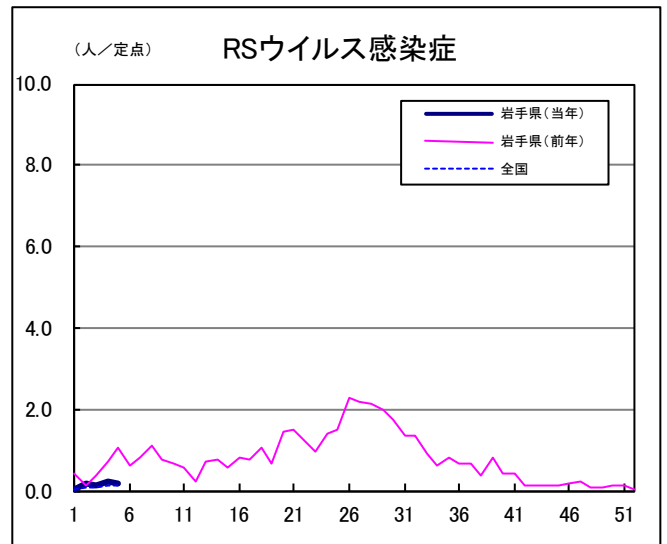
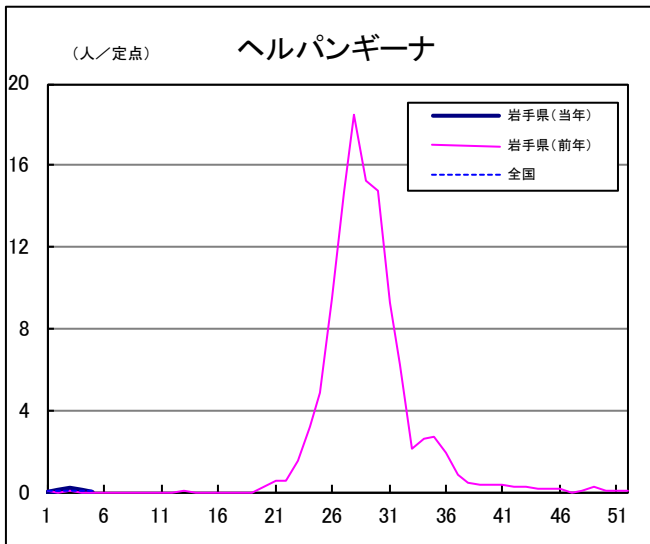
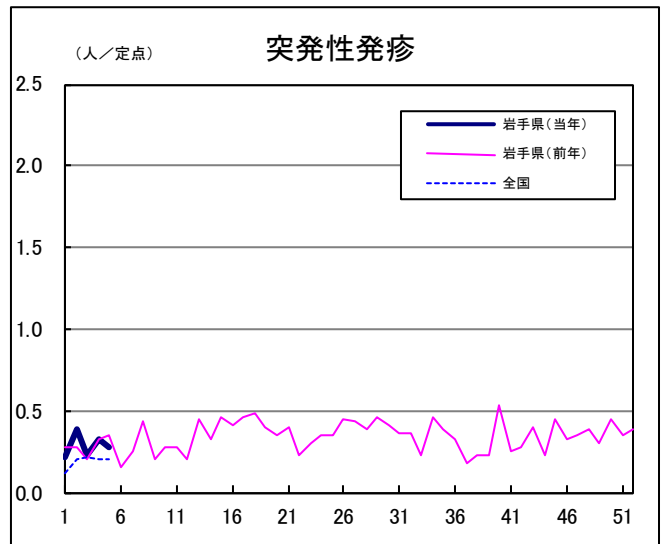
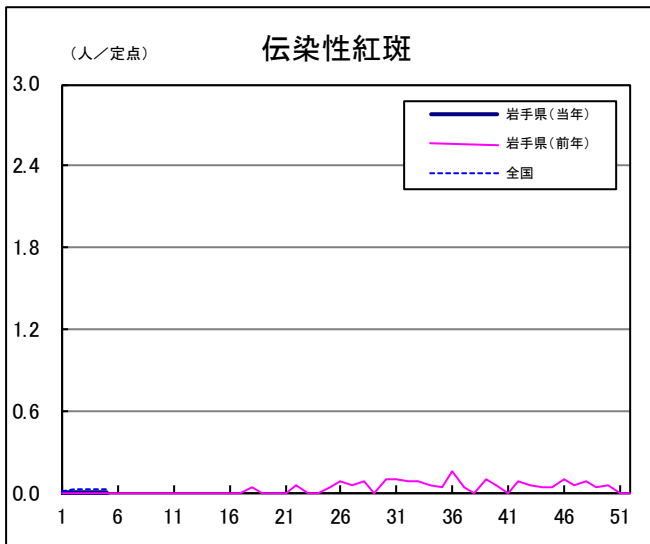
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

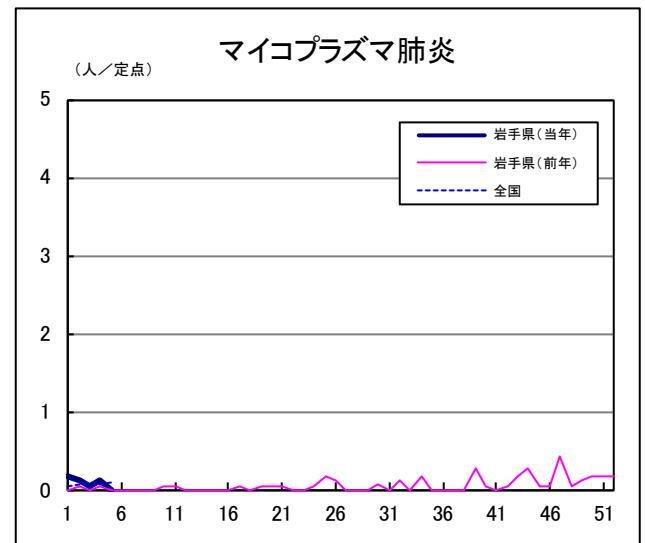
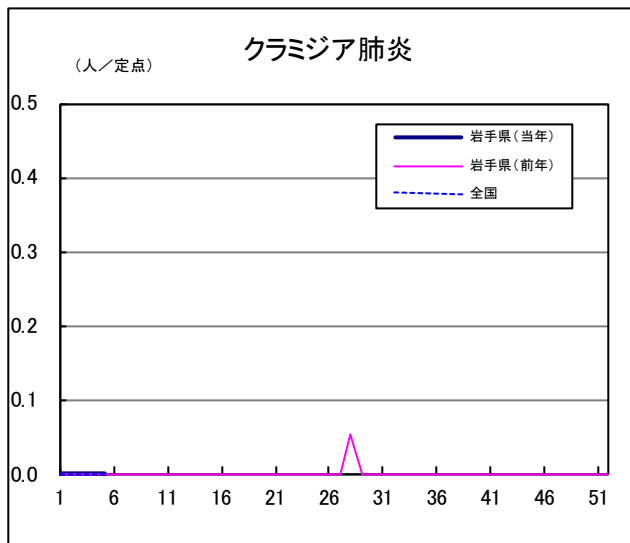
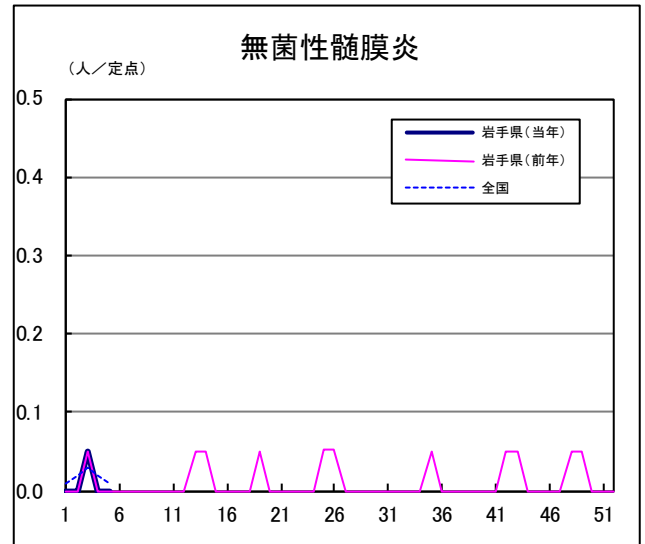
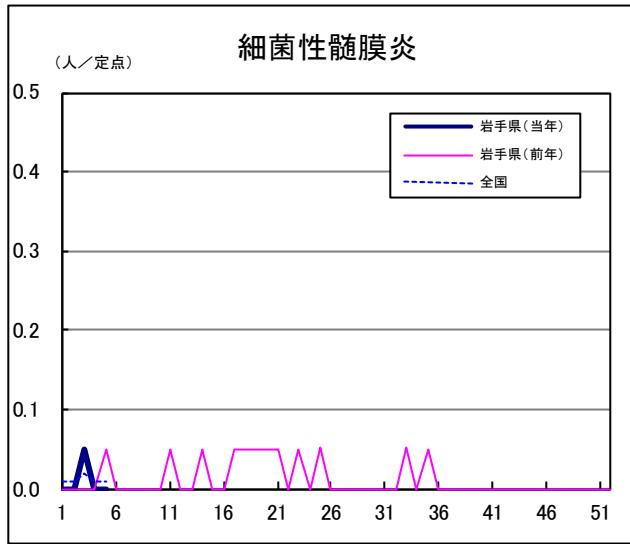
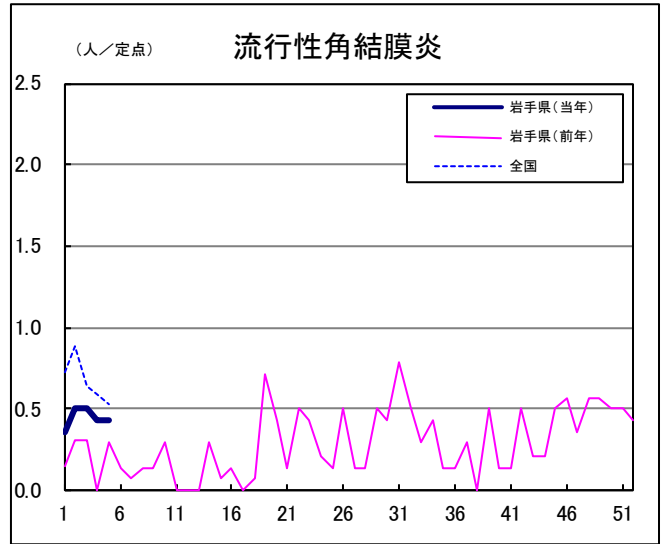
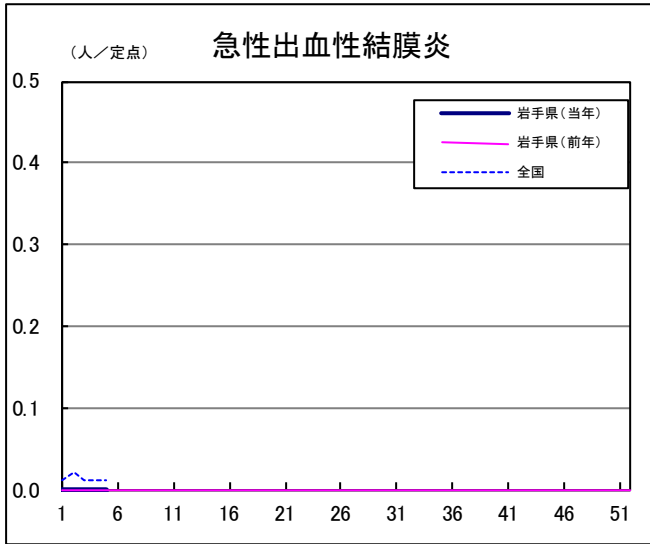
医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記宛先までお寄せください。  
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）  
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16  
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667  
E-mail: CC0019@pref.iwate.jp



疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)







定点医療機関の数

地区	定点種別 インフルエンザ /COVID-19	小児科 定点	眼科定点	基幹定点
岩手県	61	39	14	19
盛岡市	11	7	3	4
県央	9	6	2	1
中部	9	5	2	4
奥州	7	4	1	2
一関	7	4	1	2
大船渡	5	4	1	1
釜石	3	2	1	1
宮古	5	3	1	1
久慈	2	2	1	1
二戸	3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<https://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 令和6年第5週 令和6年2月9日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査協議会

発行：岩手県環境保健研究センター  
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター  
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <https://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<https://www.pref.iwate.jp/soshiki/hofuku/1016013.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>